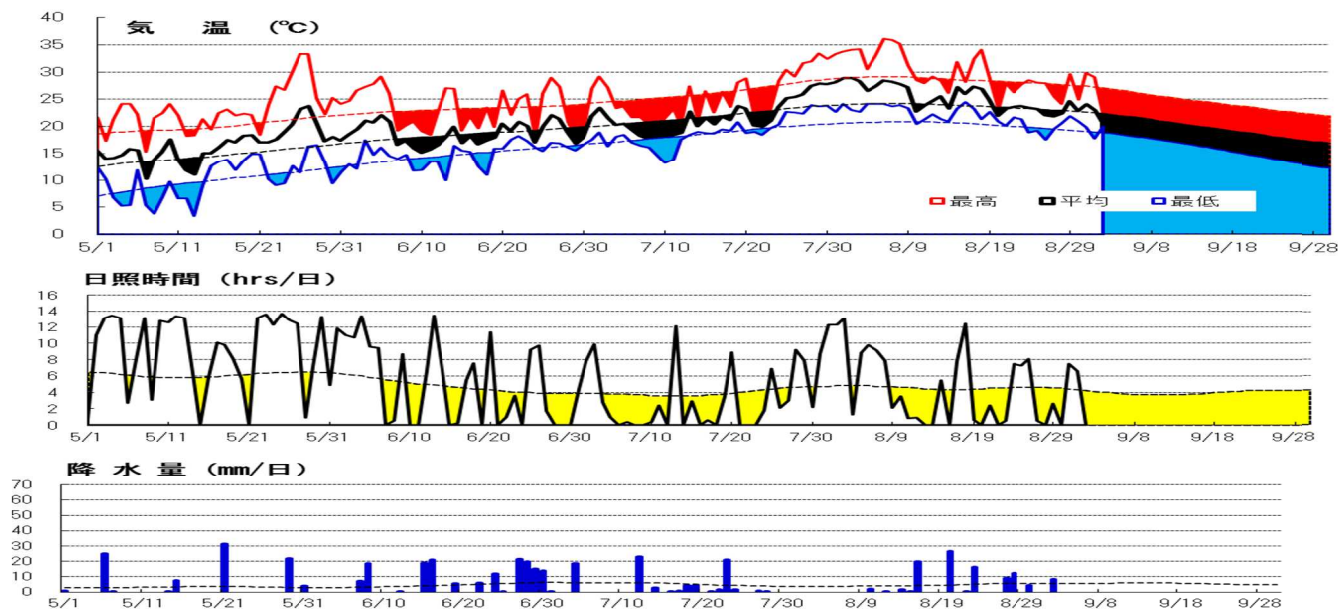


降雨で一部地域で播種遅れ、高温でやや回復か？病害虫防除の徹底を！！

1 気象経過

(アメダス 古川)

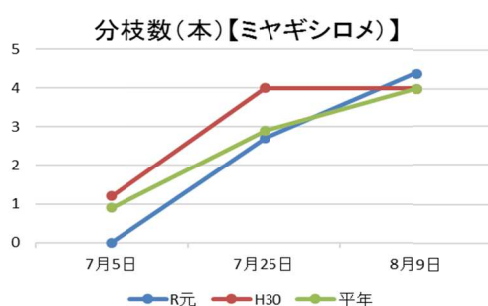
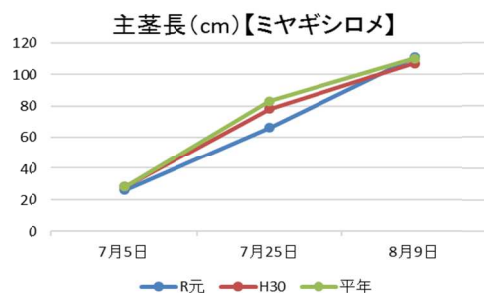
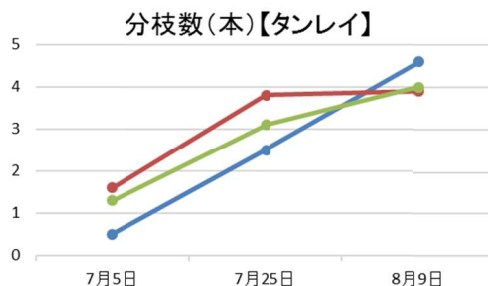
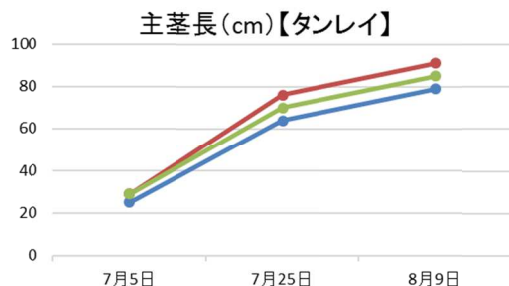


- ・ 6月中下旬～7月中旬まで低温・寡照傾向で、6月中下旬にかけて多雨で平年比110～155%であった。
- ・ 7月下旬以降は高温で推移し、8月も高温・寡雨傾向となった。
- ・ 日照時間は、6月中旬まで多照であるが、その後多照・寡照を繰り返し、8月は並となった。

2 生育状況

(1) 古川農業試験場

- ・ 主茎長は、タンレイで生育初期から前年及び平年を下回って推移しているが、ミヤギシロメでは、8月19日調査では平年並みになっている。
- ・ 分枝数は、7月25日までは、前年及び平年を下回っていたが、8月9日では上回る生育なった。



- ・開花期は、タンレイとタチナガハで7月30日と前年より8日、平年より5日遅くなった。
ミヤギシロメでは、8月3日で前年より5日、平年より2日遅くなった。

開花期

品種	開花期	前年差	平年差
標播：タンレイ	7月30日	+8	+5
標播：タチナガハ	7月30日	+8	+5
標播：ミヤギシロメ	8月3日	+5	+2
晩播：タンレイ	8月11日	+1	0



(2) 播種約60日後生育の現地事例

- ・県内の生育状況をみると、播種時期に降雨が多かったため、播種作業が大きく遅れたり、播種できなかったところも見受けられた。
- ・播種後も、7月の低温や曇雨天により、排水不良の水田では湿害を受けている圃場が多かった。そのため、培土作業が通常は2回実施するところが、本年は1回にとどまったところが多い。
- ・登米の例でも過去2ケ年に比較して、主茎長は15～20cm程度短くなっている。
- ・主茎節数と分枝数については、天候が回復したことで平年よりも多くなっている。

播種後約60日後の生育（登米 6月上旬播種）



3 今後の管理

(1) 病害虫防除

【病害虫防除所発生予報第9号：8月29日】



病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
紫斑病	—	平年並	・前年の子実調査の結果、発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量は平年よりやや少ないと推測される。(/ —) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多い予報となっている。(/ ± ~ +)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は、平年より低かった。(/ —) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多い予報となっている。(/ ± ~ +)
ジャガイモヒゲナガアブラムシ	—	やや少	・巡回調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった。(/ —)
マメシクイガ	—	やや少	・前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬量も平年よりやや少ないと推測される。(/ —)
フタスジヒメハムシ	—	やや少	・巡回調査の結果、過去7か年の平均と比較して発生量はやや少なかった。(/ —)

◆紫斑病

- ・開花期後20～40日に1～2回の薬剤防除を実施する。「タンレイ」は発生が多いので、2回の防除を徹底する。
- ・刈取時期が遅れた場合、発生を助長する傾向があるので適期に刈取り、速やかに乾燥する。

◆べと病

- ・品種間差が大きく、「ミヤギシロメ」、「タンレイ」の順で発生が多い。

◆マメシクイガ

- ・大豆を連作すると発生が多くなるので、特に注意する。防除適期は概ね8月第6半旬～9月第1半旬である。